

令和5年度 府立丹後緑風高等学校久美浜学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階（案）

令和5年4月3日

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>「夢と人・学舎・地域・世界を結び、ものごとの本質を究め、新たな価値を創り出す」人材を育成する。</p> <p><教育目標></p> <p>1 丹後地域の自然・歴史財産を活用した新しい時代に求められる探究心の育成</p> <p>2 丹後とグローバル社会を結ぶ若者力の育成</p> <p>3 丹後地域での新しい農業と食を創造できる人材の育成</p> <p>4 福祉マインドの育成</p> <p><育てる生徒像></p> <p>■ 豊かな人間性と社会人基礎力を身に付け、自ら学ぶ生徒</p> <p>■ 丹後を愛し、丹後地域の発展に貢献しようとする生徒</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 学校だより、SNSの活用、全教職員によるHP更新等の取組などにより、多様な媒体を活用して情報発信を充実させることができた。</p> <p>(2) 両学科において特色ある教育活動を進めるとともに、課題研究・探究活動の成果を生徒が発表する機会として「みらいのタネ」を開催することができた。</p> <p>(3) 網野学舎との農商連携による商品開発を進め、販売まで行うことができた。また、3科目で遠隔授業を実施することができた。</p> <p>(4) 概ね落ち着いた雰囲気での授業を実施できた。また、ICT活用等も進め、1年生の基礎学力の向上が見られた。</p> <p>(5) 毎朝の昇降口での挨拶の取組や今週の振り返りアンケートの実施や迅速な対応により、生徒の学校生活への安心感に繋がっている。ボランティア活動への参加も増加している。</p> <p>(6) 生徒に共感しながら主体的な行動を促すコーチング手法によるチューター面談を導入し、全校体制での生徒支援の基盤を作ることができた。</p> <p>(7) 特別支援教育の視点に立った個別の教科指導計画を作成し、指導に活かすことができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 広報活動の内容や対象の検証による効果的な生徒募集の実現</p> <p>(2) 全家庭のメール配信サービスへの登録</p> <p>(3) 授業におけるタブレットの効果的な使用方法とICT教材の活用による基礎学力向上に向けた指導の研究</p> <p>(4) 特別支援教育の視点の共有と各学力層を伸ばす効果的な指導方法の実践研究</p> <p>(5) 生徒会行事への生徒の主体的参加を実現するための指導方法や指導計画の改善</p> <p>(6) 進路の各取組や講習、模試への主体的参加に向けた指導方法や指導計画の改善</p>	<p>左記の〈育てる生徒像〉の実現に向けて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 本学舎版「はぐくみたい3つの力」の育成</p> <p>① 主体的に学びに向かう姿勢</p> <p>② 基礎的な知識と技能</p> <p>③ 情報を整理して伝える力</p> </div> <p>(1) 地域や専門機関等と生徒を結ぶことで「課題研究」や「総合的な探究の時間」で生徒の主体的活動を促進する。</p> <p>(2) 観点別評価を軸にICT機器利活用や探究的指導による授業改善を進め、各学力層の学力向上を図る。</p> <p>(3) 生徒個々の課題に応じた学習指導を充実させる。</p> <p>(4) 進路意識の高まりや主体的な進路の取組に繋がるキャリア教育を計画的に実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 自己有用感の醸成</p> <p>(1) 規範意識の醸成と健全な生活態度の育成を図る。</p> <p>(2) 生徒会行事や部活動、ボランティア活動、地域貢献の取組等を生徒の主体性向上の機会と捉え、計画的・組織的な指導、支援を行う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3 学舎間連携の推進</p> <p>(1) 効果的な遠隔授業の実施・研究を進める。</p> <p>(2) 農商連携を継続・発展させる。</p> <p>(3) 学舎間の生徒合同による教育活動を実施する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4 広報活動の充実</p> <p>(1) 効果的な情報発信に向けて広報内容を見直す。</p> <p>(2) 生徒募集に向けた取組を全校体制で進める。</p> <p>(3) 保護者案内をメール配信サービスへ集約する。</p> </div>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	広報活動の充実によって志願者数を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方、中学生とその保護者に対して、適切な時期に学校の特色を発信し、効果的な広報活動を継続して行う。 【志願者数、昨年度比1.2倍】 	(A)	<p>HPの更新を全教職員が取り組むことで、広報活動への意識が高まっている。今年度は学校広報に参画する生徒も複数名おり、新たな視点での広報活動ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に安全点検を行ったり、日々の活動の中で異常や不具合があった箇所については速やかな報告、迅速な対応が出来るようにしている。 ・HR教室・職員室・多目的教室・LL教室へのGIGAスクール構想通信ネットワークの整備が出来た。海部Kitchenの環境整備は新しい設備の設置に向け既存設備の撤去を行うことが出来た。 ・8月までの19時30分退勤率は78%だった。 ・「早よ帰ろうウィーク」の取組では、期間中1番早い退勤時間18時30分までが70%を超え、取組の周知と成果を上げることができた。 ・好事例の参考、導入出来そうなものが難しい。 ・学校行事などは取組内容や準備等の業務の見直しが出来ている部分はあるが、日常の分掌業務などの見直し・スクラップにはなかなか取り組めていない。 <p>商品開発において農商連携を行い、緑風マーケットでの販売を行っている。また、両学舎の成果発表会には今後の学びを深めるため、相互に参加することも計画している。みらいクリエイト科での学舎間連携も進める必要がある。農商連携として1年合同田植えを初めて実施し、米のパッケージデザインの交流を進めたり、課題研究の取組で製菓の新商品開発に関する遠隔会議を4回実施するなど、連携を進めています。</p>
	安心・安全・快適な教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の安全点検により危険箇所の早期発見・改修に努める。 ・1人1台端末の教育環境を整備するため、GIGAスクール構想通信ネットワークの拡張を図る。 ・アグリサイエンス科での教育環境を充実させるため、海部kitchenなどの実習施設の環境整備を実施する。 【学校評価アンケートでの教育環境満足度：80%以上】 	(A)	
	教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌ごとに業務の見直し、スクラップに取り組む。 ・「はよ帰ろうウィーク」を実施し、早期退勤を促すとともに分掌部長をはじめとした積極的な声かけを行う。 ・他校や他業種で取組む施策、好事例を参考に研究・活用を進める。 【19時30分退勤率：80%以上】 	B	
	学舎間で生徒合同による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学舎間の教員が定期的に情報交換をし、生徒合同の教育活動を計画・実施する。 ・農商連携をはじめ、進路行事やボランティア活動などにおいても交流を行う。 【生徒合同による教育活動：10回以上】 	C	
家庭・地域との連携	保護者への情報発信の充実を図り、PTA活動への積極的な参加につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・HPと「マチコミ」を有効に活用して保護者の教育活動への理解を進める。 【学校評価アンケート：「学校の様子が分かる」の肯定的評価70%以上】 	(B)	<p>HPの更新は週2回以上を継続し、マチコミの登録状況は現在94%となっている。保護者にとって必要な文書をマチコミで確実に配信していくことが課題である。</p>

	地域連携による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動（実習、探究活動、課題研究、部活動、ボランティア活動等）において、地域や大学・専門学校、福祉施設等との連携による活動を進める。 【年間の取組を30回以上実施】 【生徒全員が一度は地域連携の取組に参加】 	A	(B)	現在の取組状況 30回以上であり、生徒全員が何らかの地域連携の取組に参加している。平田オリザ氏による演劇ワークショップを実施し、探究活動や課題研究、さまざまな授業においても、福知山公立大学やrootsなどから講師を招くなど、地域連携を進めている。組織的な連携体制の構築が課題である。
学習指導	授業規律の確立 「時を守り、場を清め、礼を正す」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律と教室の整理整頓の指導を行う。 ・ベル着の指導を徹底し、授業時間の有効活用に努める。 【授業に関するアンケート（仮）での「授業規律」に関する回答平均3.5以上（4段階評価）】 	B	B	2学期末にアンケートを実施する予定である。成績も含め、授業に集中できない生徒に対して複数の教員で面談を行うなど、組織的に対応している。ベル着はほとんどの講座で達成できている。
	「はぐくみたい3つの力」の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器、学校図書館、新聞等の活用、探究的手法の導入等による授業改善を図る。 【公開・研究授業の参観：教員一人年間2時間以上】 【「はぐくみたい3つの力」向上に関するアンケート：肯定的回答80%以上】 	B		2学期末にアンケートを実施する予定である。公開・研究授業の1学期実施では92%の参観率だった。2学期の参観率向上に向け声掛けをしていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の学力に応じた指導を行うとともに、検定試験を活用する等の学習意欲を高める方策を実行する。 【漢字検定・英語検定・数学検定の受験者数のべ70人以上】 【授業アンケートでの「力の伸びの実感」回答平均3.5以上（4段階評価）】 	C		1学期の検定試験の受験者は21名であった。各教科からポスター掲示や直接の声掛けをしてもらい、今後も呼びかけを継続してもらおう。アンケートは2学期末に実施予定。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習に課題を持つ生徒、前年度不認定科目を持つ生徒へ計画的にいていねいな指導を行う。 【学年末で不認定科目を抱える生徒の割合10%以下】 【不認定科目の追認審査で年度内合格：100%】 	B		追認審査は教科担当者の粘り強い指導により全員合格した。各審査における気になる生徒を集約・共有し、期末審査前の基礎補充につなげている。
各学科の特色に応じた学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な専門知識や技術の習得を図る。 ・社会人講師を活用し専門知識や幅広い考え方を学ぶ。 【関連資格取得生徒数：のべ40名以上】 【各学科各コース：社会人講師活用授業年間1回以上】 	B	B	みらい探究にて社会人講師活用授業を実施している。アグリサイエンス科では、大槻菓舗、紫野和久傳、花かたにし、農業機械士協議会など多くの専門家の指導を頂いた。また、農業関連資格取得では、危険物取扱者資格3名、小型車両系建設機械特別教育修了7名、ガス溶接2名、食品衛生責任者講習6名、など多くの資格取得に取り組んだ。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校農業クラブ活動を活性化し、各種競技会・講習会に積極的に参加する。 【各種競技会入賞：3名以上】 	A	京都府連大会意見発表Ⅱ類で1名、和牛審査競技会で2名の優秀賞に入賞している。また、日本学校農業クラブ全国大会（熊本大会）へ2名の生徒が学校代表として農業鑑定競技に出場。		
	安心・安全の学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の困りに対し、早期発見・早期対応できる学校を目 			突発的な事象は起こったものの、素早く対

生徒指導		指し、教員間の連携を密にとり、生徒の実態に迫り指導を行う。 【学校評価アンケートでの「学校生活への安心度」80%以上】	(A)	(A)	応することができた。毎週の振り返りを行うことで、生徒の困り感をキャッチすることができ、早期発見・早期対応を行うことができた。
	生徒の自己肯定感・自己有用感を高める	・学期毎にGood Card週間を行い、生徒の良い行動を認め、生徒の自己肯定感を高める。 ・ボランティア活動を推奨し、地域に貢献することで、自己有用感を高める。 【「ボランティア活動参加への満足度」50%以上】	B		Good Card週間を実施していない。Good Card週間について今後部会で検討を行い、実施の方法についてもより良い方法を考えていく。生徒会執行部を中心に、生徒が主体的に行事に取り組むことができた。学校祭の生徒アンケートでは、体育祭は91%、文化祭は100%がやって良かった、楽しかったと前向きな意見である。ボランティア活動については、大変満足、満足の合計の値が100%となっている。
進路指導	希望進路の実現に向けて、生徒一人一人が主体的に考えて行動できるように支援する。	・3年間を見据えた進路実現プラン「未来への架け橋」を計画的に実行する。 ・各学期毎に学年部と進路指導部で連携して進路HRを実施する。 【各学期の実施率100%】	A	B	全校生徒に「未来への架け橋」を配布、3年間の流れをを共有している。大学見学バスツアーは予定変更を依頼し7月に実施。進路検討会議3年生2回実施。チューター面談、二学期前半段階での2回実施率 1年 92% 2年 72% 1学期全学年進路HR実施。 チューター面談・模擬面接などを通して生徒の情報共有を学校体制として行っている。後半は未実施の1・2年生の生徒情報交流に重点をおきたい。
		・進路希望調査や面談を通じて得た情報を共有し、目標達成のために必要な指導計画を立てる。(講習・模擬試験受験・検定試験受験・出願指導など) 【進路検討会議の実施 各クラス2回以上】 【チューター面談5回実施】	B		
健康安全指導	健康で安全な生活を営むための実践的能力の育成	・自ら健康管理ができる生徒を育成するために、保健だよりを活用し、季節や行事に応じた対策を身につけさせる。 【保健委員による健康に関するワンポイントアドバイスの実施 年5回】	A	(A)	・保健委員によるワンポイントアドバイスを5回実施した。以前に比べると生徒が保健だよりを見て健康情報に関心を持つ姿が増えた。 ・今年は猛暑だったが熱中症の搬送人数はゼロだった。 ・大掃除プロジェクトを4回実施した。校内の美化と落ち着いた学習環境が維持できている。
		・授業や体育での事故防止を図るとともに、安全教育を行い、大きな怪我や事故を防ぐ力を身に付けさせる。 【熱中症の発生防止】	A		
		・「時を守り、場を清め、礼を正す」を合言葉に、美化・掃除活動を行う。 【大掃除プロジェクト：年7回以上実施】	(A)		
	教育相談・特別支援の必要な生徒への組織的な指導体制構築と指導力の向上	・校内での教育相談や特別支援教育を深めるために、スクールカウンセラー及び専門機関と連携を強化する。 【教育相談や特別支援についての校内研修を複数回実施】 【個別の指導計画の作成と運用】	A		

				ターの先生から助言をもらい運用していく予定である。
人権教育	教員の人権意識の向上	・教職員研修などを通して、多様性を尊重した共生社会における高い人権感覚と人権意識を養う。 【教職員研修：1回実施】	A	・同和問題を含む人権研修を実施し、教員の人権感覚の向上に努めた
	生徒の人権意識の向上	・情報モラル・命の大切さに関する人権学習を実施し、いじめを許さない雰囲気を作り、安心して通える学校作りをする。 【いじめ早期発見のためのアンケート：年20回以上実施】	B	B ・情報モラル・命を大切に人権学習を実施した。 ・いじめ早期発見のためのアンケートを16回実施した。 ・生徒の日常生活における人権感覚にはまだ課題があり、今後も継続して指導する必要がある。

学校運営協議会による評価	
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--